



「CS教師の資質① 教えられる者」

支援教師 奈良 献児

今回からのコラムでは、教師の資質について合計で七つのことを、皆さんとともに考えたいと思っています。その第一回目は「教えられる者」であるということです。「教えられる」とはどのようなことなのでしょう。

1. 聖書の権威を信じる

まず、教会学校の教師として決して見逃してはいけない資質とは、聖書のみ言葉の権威を信じているということです。

「聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」（第2テモテ3章16節）とあります。ですから、みことばを教えていく働きに携わる私たちにとって、聖書の権威を信じずに聖書を教えるなどと言うことができるでしょうか。

しかし、聖書が神の言葉であるということを知ると信じるということは、ただ信じているということなのではありません。権威を信じるということは権威に従うということでもありますから、たとえ教師であっても聖書から問われていることには、きちんと前向きに従っていくということです。たとえ、自分にとって都合の悪い様な事が明らかになったとしても、聖書の権威に照らし合わせた時、大人であっても素直にみことばの指示に従う姿勢を持つべきでしょう。そして、私たちのみことばの権威に従う姿勢を子どもたちに証しできるようふるまっていきましょう。

2. みことばを学ぶ姿勢

みことばの権威に従う者であれば、次にはみことばに教えられる毎日であることも覚えておきましょう。「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」（第1ペテロ2章2節）とありますから、まずは自分から進んで、礼拝や祈禱会などでみことばを学ぶ機会を増やして行こうではありませんか。

また、教会学校の教師研修会でも、事務的なことの話し合いだけでなく、より積極的に学び合う機会を設けるよう配慮していきましょう。

そうなる、その学びのためのツールが必要となりますが、経済的に余裕があれば幾つかのみことばを学ぶための資料を手元においておきましょう。しかし、一番の資料は、何と言っても私たちが使っている聖書そのものであることは言うまでもありません。新改訳聖書であればその欄外の註や引用箇所の利用だけでもかなりの学びをすることが出来ます。

3. みことばを实践する毎日

その様にしてみことばを学ぶ者となった私たちは、毎日の生活の中で当然の事ながら教えられたみことばを实践するべく聖霊に促されるはずで、「主よ。あなたの道を私に知らせ、あなたの小道をわたしに教えてください。」(詩篇25篇4節)、「天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。」(第1ペテロ1章12節)とあるように、みことばの權威に従って毎日を送ることの中で、あなたが謙遜にみことばに聞き従う者であらねばとも聖霊に教えられていくことでしょう。

みことばの前に謙遜である。これこそ、子どもたちにみことばを教えるために最も大切なことではないでしょうか。聖書を知識として教え込むことはそれほど難しいことではありません。ですが、聖書の權威を信じて、その權威に従って生きていける子どもたちに育てるためには、その見本たる私たちこそ、みことばの權威に謙遜に従って歩む見本として生きていてほしいのです。

ディスカッション・ガイド

①みことばの權威が、自分の生活の中でどの様に影響を与えているのかを考えてみましょう。

②あなたはどのようにしてみことばによって教えられた、励まされたということがありましたか。